

守備を参考にしているプロ野球選手は澤田壮亮選手(埼玉西武ライオンズ)。「全てにおいてハイレベル。見習うところが多くてとても勉強になります」と、普段ノックを受けている映像を見て研究しているという



地方大会を順調に勝ち上がり、迎えた甲子園初戦の東海大学付属相模高校(神奈川県)戦。序盤こそ投手戦を繰り広げるも、4回に土田くんはタイムリーエラーで先制点を許し、本来のペースを崩したチームは1対6で敗退。土田くんは、自分を責めた。「先輩たちにとっては最後の大会。申し訳ない気持ちでいっぱいでした」。同時に、決心する。「この借りは、必ず自分たちの代で、同じ場所(甲子園)で返そう」と。

世代が巡り、土田くんは実力と人望を買われてキャプテンに就任。新チームをまとめ上げる一方で、自らの守備を見つめ直した。守備機会が訪れる前のポジションニングに始まり、打球の捕球姿勢、握り替え、送球動作の一点一点に至るまで。社会人野球チームの練習に参加し、守備の名手だったコーチから教えを受けたのも大きかった。天性のセンスに理論が加わり、土田くんの守備は劇的な進化を遂げる。そうして迎えた2020年、思わぬ災厄が降りかかる。新型コロナウイルス感染症拡大への懸念から、春と夏の甲子園大会が中止に。多くの仲間たちがモチベーションを失う中、土田くんの切り替えは早かった。落ち込む仲間たちを励ましつつ、活動自粛期間中も自主トレーニングに集中。甲子園という目標はなくなった。しかしもとより、土田くんがめざす野球人生には続きがあった。

県内で開催された独自大会の終了を待たずして、土田くんは日本高等学校野球連盟にプロ野球志望届を提出する。「プロという目標がなければ、野球少年たちに夢を、プロの舞台での活躍を誓う」



近江高校硬式野球部監督 多賀章仁さん
県内屈指の強豪チームを率いる名将。早くから土田くんの才能を見抜き、成長を後押しするフィールドを整えた

運命の10月26日、プロ野球ドラフト会議にて、土田くんは中日ドラゴンズから3位指名を受ける。「3位という高い評価は、土田の伸びしろに期待していただいた証拠。今はまだプロとしてはパワー不足」と多賀監督は冷静に評価する一方で、「3年間はしっかりと体づくりに励み、大きな期待を寄せる。」



上)守備の名手になるまで使い込んだグローブ。球団入りの際は新たなグローブを持参し、フレッシュな気持ちで夢の舞台へ立つ
右)目標は「日本一」。チームが近江高校から中日ドラゴンズに移っても変わらない

「『龍空』という名前を、たくさんの人に覚えてもらいたい。野球に打ち込む子どもたちが憧れるような選手になりたい。そのために、目の前のことに一生懸命取り組んでいきます」と意気込みを語る土田くん。近江ブルーをまとった若き球児は、来年からドラゴンズブルーのユニフォームに袖を通し、夢の舞台を突き進んでいく。龍は空に。その昇龍伝説を、しっかりと目に焼き付けたい。



米原野球スポーツ少年団時代の土田くん。小学生のときはサードとキャッチャーを務めた

1年生から正遊撃手 兼ねそろえた実力と人柄
一歩目が早く、球際に強い。捕球しからの球出しの速さはまさに神業で、送球も速くて正確。決して派手さはなく堅実、しかし魅せる守備。プロのスカウトをも唸らせた近江高校硬式野球部・土田龍空くんの高い守備力は、いったいどのようにして培われたのだろうか。
米原市出身。少年野球のコーチを務めていた父の影響で野球に興味を持ち、1歳からグローブ片手にキャッチボールを楽しんだ。小学2年生で米原小学校の少年野球チームに入り、中学では長浜市の硬式野球チーム・湖北ボーイズに所属。2年生から不動のショート(遊撃手)となり、3年生になるころには全国の名門高校野球部から誘いの声がかかるようになる。その中から土田くんが選んだのは、地元の名門校・近江高校だった。

巻頭特集 祝!中日ドラゴンズからドラフト3位指名
近江高等学校硬式野球部

土田龍空くん

10月26日に開催されたプロ野球ドラフト会議にて、近江高校硬式野球部の土田龍空くんが中日ドラゴンズから3位指名を受けた。華麗な守備は同世代の高校生ナンバー1ともいわれ、プロの世界でも飛躍が期待されている。

章仁監督は「もちろん声を掛けた。当時からそれだけの力量を持ち合わせた選手という評価。緑あつてうちに来てくれて幸いだった」と当時を思い返す。
走攻守を高いレベルであわせ持ち、野球センスもある。そんな土田くんを、多賀監督は1年生の夏大会からレギュラーショートとして起用した。元は3年生キャプテンが守っていたポジション。難しい選択だった。「高校野球はプロ野球とは違い、実力があるからといって簡単には序列を崩せないもの。しかし土田には上級生に可愛がられる人間的な魅力があり、チームメートの誰もが『土田の加入はうちのチームにとってプラス』と受け入れていたことが大きかった」と、多賀監督は決め手を語る。

仲間たちからの信頼と期待に応え、土田くんは同大会にて大車輪の活躍を見せる。2番ショートとしてフル出場し、地方大会では打率・556、打点4、盗塁2の好成績を記録。チームの地方大会優勝と甲子園ベスト8入りに貢献した。
甲子園で味わった悔しさを 向上心に変えて
1年生の秋大会からは主に3番打者を任せられ、土田くんはいよいよチームの主力としての期待を背負うようになる。新チームには1学年上に直近の甲子園大会を経験した実力者が多く、前年超えの戦績を期待する声も大きかった。



土田龍空くん
Tsuchida Ryuku

- 2002年12月30日生まれ
- 米原小→米原中→近江高校
- 180cm/77kg/右投げ左打ち
- 高校通算30本塁打/50m6.0秒

近江高校では1年生の夏大会からショートのレギュラーに定着。3年生ではキャプテンを務め、地方大会3連覇に貢献した(2020年は滋賀県独自大会)

打撃を参考にしているプロ野球選手は森友哉選手(埼玉西武ライオンズ)と大谷翔平選手(ロサンゼルス・エンゼルス)。「森選手は下半身の使い方、大谷選手は全身の使い方を参考にしています」と土田くん